



一不可思議は十の六十一乗

参議院議員
客員相談役

藤井基之



平成二十五年が明けました。新年おめでとございます。

さて、一月一日、年の始め。一は数字のはじめ、物事の始まりですが、それにちなんで、今回は数字のお話。

江戸時代に、吉田光由という数学者がいたそうです。一五九八年生まれといいますが、徳川家康が江戸幕府を開いたのが一六〇三年、その五年前の生まれ、ということになります。

この吉田光由が書いた数学書「塵劫記」という本が、江戸から明治にかけてベストセラーを続けたそうです。「塵(じん)ん」はチリ、ホコリや細かな砂粒。「劫(ごう)」は「未来永劫」などというように、何億年というような宇宙的な長い時間を表す言葉。つまり、「塵劫」というのは、「ゼロから無限数まで」という意味で、数学書となっているわけです。

そこで、塵劫記は、まず、数字の単位の説明から始まります。昔から始まって拾、百、千、万、億、兆と続き、そして京(けい)。京は余りなじみのない単位ですが、スーパーコンピュータに「京」という名前がつけられ、その計算スピードが京という単位を用いないと表せないくらい速いところから、そういうニックネームがつけられ話題になりました。この「京」の計算スピードは昨年世界一になりました。「二番じゃいけないの？」などと言わないことを言った愚かな政治家がいましたね。

さて、その「京」より上の単位はどうなっているか、塵劫記によると次のような単位を紹介しています。

「姪(がい)、積(じょう)、溝(こう)、潤(かん)、正(せい)、載(さい)、極(ごく)、恒河沙(ごうがしゃ)、阿僧祇(あ

そうぎ)、那由他(なゆた)、不可思議(ふかしぎ)、無量大数(むりょうだいすう)「数字も大きくなると、不可思議」になるんですね。一方、小数点以下の単位もありますがお正月ですから「小さい話はやめておきましょう」。

塵劫記には、田の数の呼び方、九九の掛け算、八さん割(「二一てんさくの五」というソロバンでの呼び方)、米などの売買計算、小判などの両替計算、利息の計算、堤防工事の堤の広さ計算、亀の子計算など、「方程式」などという便利な計算方式も計算機もない時代、様々な実用に役立つ計算方法や数字遊びが紹介されています。

面白いのは数字クイズ。例えば、次のような問題が載っています。

「ある家で主人が亡くなった。財産相続の権利のある子供が三十人(凄いで

すね)おり、子供たちの誰を相続人とするかを決めることになった。この家を仕切っていたのは亡くなった主人の後妻で、その後妻の子が十五人、残る十五人は先妻の子だった。そこで、この後妻は子供たちを輪に並べ、一、二、と数えて十人目ごとに、その十番目に当たった子供を輪から除くということを繰り返して、最後に残った子を相続人にする、ということとした。そして子供たちを並べて数え始めたのだが、実は、先妻の子が優先的に除かれるように仕組んで並べられていた。先妻の子が一人だけとなった時に、その残った一人が不服を唱え、次は自分から十人ずつ数えてくれと言い出

した。仕方なくそのようにしたところ、今度は後妻の子が次々と輪から除かれて行き、結局その不服を唱えた先妻の子が残った。さて、最初に後妻は子供たちをどのように並べ、誰から数え始めたのか？」

答は？まあ、ご自分で塵劫記を読んでみて下さい。

とまあ、実用から遊びまで解説したこの塵劫記は、江戸から明治にかけて一般庶民にまでミリオンセラー、大人気だったというのですから、日本人は意外に算数好きだったのでしょうか。数学のノーベル賞と言われる「フィールズ賞」では、これまで三人の日本人数学者が受賞して

おり、日本は「数学大国」だそうです。算数好きだった江戸市民のDNAが今に続いているのでしょうか。

不安定な政情が続き、景気も下がりはなし、日本は内外とも大変な数年を過ごしました。しかし、日本には、資源は乏しくとも知恵があります。今年の干支は「巳」。へび年ですが、本来は、巳年の「巳」は、「植物が種をつける時期」あるいは「子宮に胎児が包まれている」という意味の干支で、「巳」は「包」という字の中の部分と同じだそうです。将来への期待が生まれるおめでたい干支。新年に期待いたしましょう。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
- 好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
平成13年 参議院議員(1期目)
平成16年 厚生労働大臣政務官(平成16年9月~平成17年11月)
平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
平成22年 参議院議員(2期目)
平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長

- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師